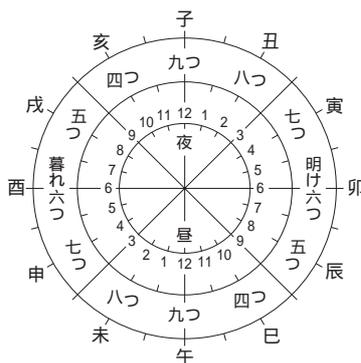


# 櫓時計

江戸の刻限の図

日本で、初めて時計を製作したのは、尾張藩鍛冶頭の津田助左衛門であると言われていいます。櫓時計は、和時計（国産時計）の最も古くからある種類の一つで、櫓台の上に時計がのっているもので、大名・豪商や寺院など、一部の人たちの持ち物でした。

江戸時代、時刻の表示方法は不定時法といって日の出から日没までを六等分、日没から日の出までを六等分して、それぞれ別に時を刻む方法をとっていました。また、昼・夜の長さは、季節によって異なるため、調整機能を持っていたようです。これは幕末まで続き、すべての生活習慣がその季節の刻によって決まっていました。



（八つ）、寅（七つ）、卯（明け六つ）というように表示されました。

時間を示す針は、固定式で文字盤が回転するようになっており、天符（時間調節用の錘をつけた天秤）の錘を上げ下げして動力にっていました。

江戸時代江戸城には、毎日刻限を調節する専門の時計坊主と

## 「私のコレクション」展示募集

### 【対象者】

町内に在住・在勤のかたおよび笠松町にゆかりのある個人または団体（法人）

### 【展示内容】

個人・団体（法人）等が収集・所蔵する資料で資料館での展示に適するもの

展示に係る費用負担はありません



笠松町歴史民俗資料館

〒 501-6052 笠松町下本町 87

☎ 388-0161 FAX 388-0185

長良川流域市町村の

「川文化ネット◇ながら」交流コーナー

12



山県市 行徳岩(ぎょうとくいわ)

武儀川の美山大橋下流500mほどのところにある行徳岩には、織田信長を討ちながら数日のうちに羽柴秀吉に敗れたため「三日天下」の語源となった戦国時代の武将、明智光秀の出生にかかわる伝説が残されています。この地の豪族の娘であった光秀の母が子どもを宿したときこの岩に立って、「男だったらたとえ三日でもよいから天下をとるような子を授け給え」と祈ったといわれています。

[ アクセス ] 岐阜バス岐北線または板取線

「美山南郵便局前」下車徒歩 5 分

[ 問合せ ] 総合企画課 ( ☎ 0581・22・6824 )

